



2012年度連結業績の概要および 2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標

経営管理部長 谷口 岩昭

2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社



2012年度 連結業績の概要

2012年度 連結業績



	11年度 実績 (億円)	12年度 実績 (億円)	対前期増減 (億円) (％)		為替影響除き (億円)
売上高	15,089	15,573	+ 483	<+ 3.2>	+ 400
売上総利益	10,757	11,096	+ 339	<+ 3.2>	+ 267
特殊要因(*1)除き	11,313	11,171	△ 141	<△ 1.3>	△ 214
一般管理販売費	5,288	6,628	+ 1,340	<+ 25.3>	+ 1,282
特殊要因(*2)除き	4,351	5,257	+ 906	<+ 20.8>	+ 868
研究開発費	2,819	3,243	+ 424	<+ 15.0>	+ 357
営業利益	2,650	1,225	△ 1,425	<△ 53.8>	△ 1,372
特殊要因(*3)除き	4,145	2,675	△ 1,470	<△ 35.5>	△ 1,438
経常利益	2,703	1,132	△ 1,572	<△ 58.1>	△ 1,516
特別損益	△ 179	165	+ 344	—	+ 344
純利益	1,242	1,312	+ 71	<+ 5.7>	+ 91
特別損益、特殊要因(*4)除き	2,482	1,846	△ 636	<△ 25.6>	△ 630
EBITDA(特別損益除き)	4,226	3,239	△ 988	<△ 23.4>	
EPS	157円	166円	+ 9円	<+ 5.7>	
特別損益、特殊要因(*4)除き	314円	234円	△ 81円	<△ 25.6>	
為替レート	USD	79円	82円	+ 3円	
	EUR	109円	106円	△ 3円	

*1: 売上総利益に係る特殊要因：企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化

*2: 一般管理販売費に係る特殊要因：企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費

*3: 営業利益に係る特殊要因：*1および*2

*4: 純利益、EPSに係る特殊要因：*1、*2に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

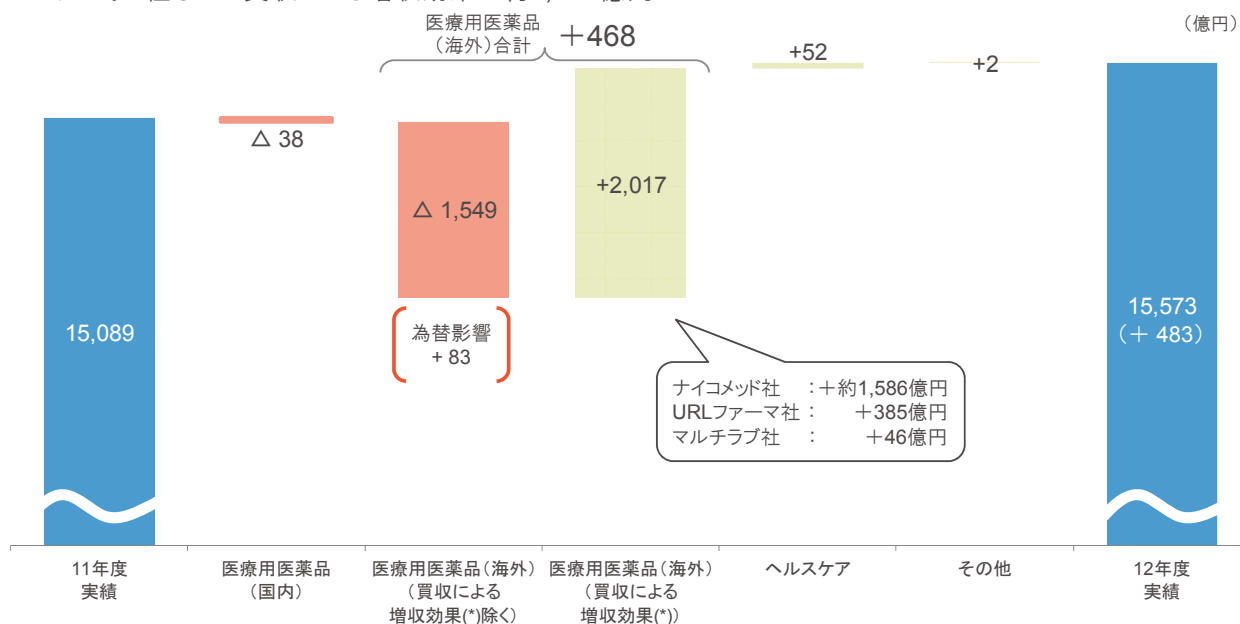
2 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社

売上高の増減内訳【セグメント別】



医療用医薬品(海外)合計は468億円の増収
ナイコメッド社などの買収による増収効果は約2,017億円



(*) ナイコメッド社買収による増収効果 … 12年度4月から9月の同社事業の概算売上高(買収年月 11年9月末)。11年4月から9月是非連結であるため、連結対象期間の差である12年4月から9月をもって同社の買収による増収効果としている。
URLファーマ社買収による増収効果 … 12年6月以降の同社事業の売上高(買収年月 12年6月)
マルチラブ社買収による増収効果 … 12年7月以降の同社事業の売上高(買収年月 12年7月)

3 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

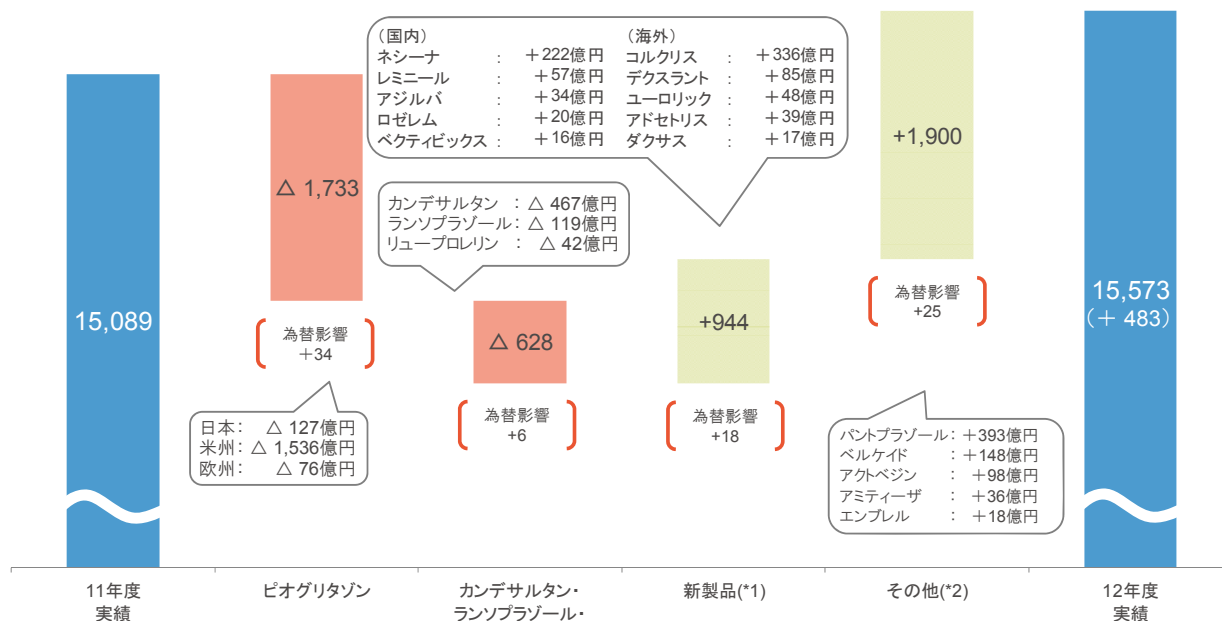
武田薬品工業株式会社

売上高の増減内訳【品目別】



ピオグリタゾン、カンデサルタンなどの成熟品の減収を、ネシーナをはじめとする新製品やベルケイド等の伸長、ナイコメッド社などの買収効果によりカバーし増収

(億円)



*1: 09年以降に発売した製品(既存品との合剤・剤型変更を除き、買収した会社の製品を含む)の増減

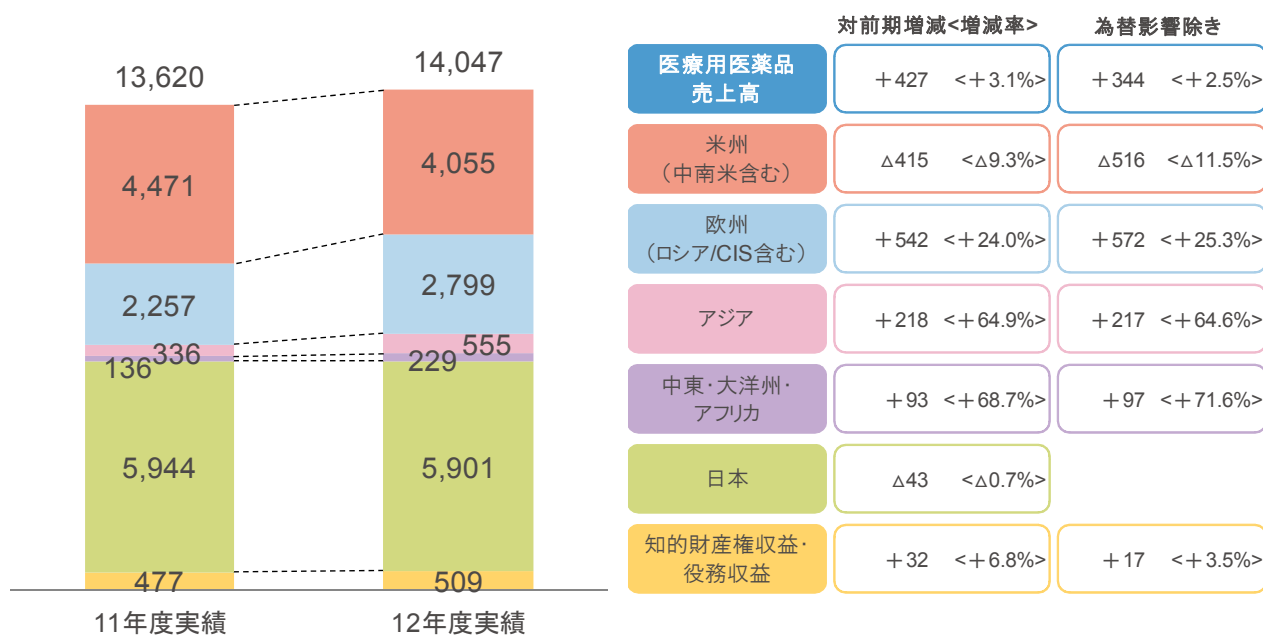
*2: 主として11年度以降に買収した会社の新製品以外の製品による増収効果やベルケイド等の既存品の増減

医療用医薬品売上高【地域別】

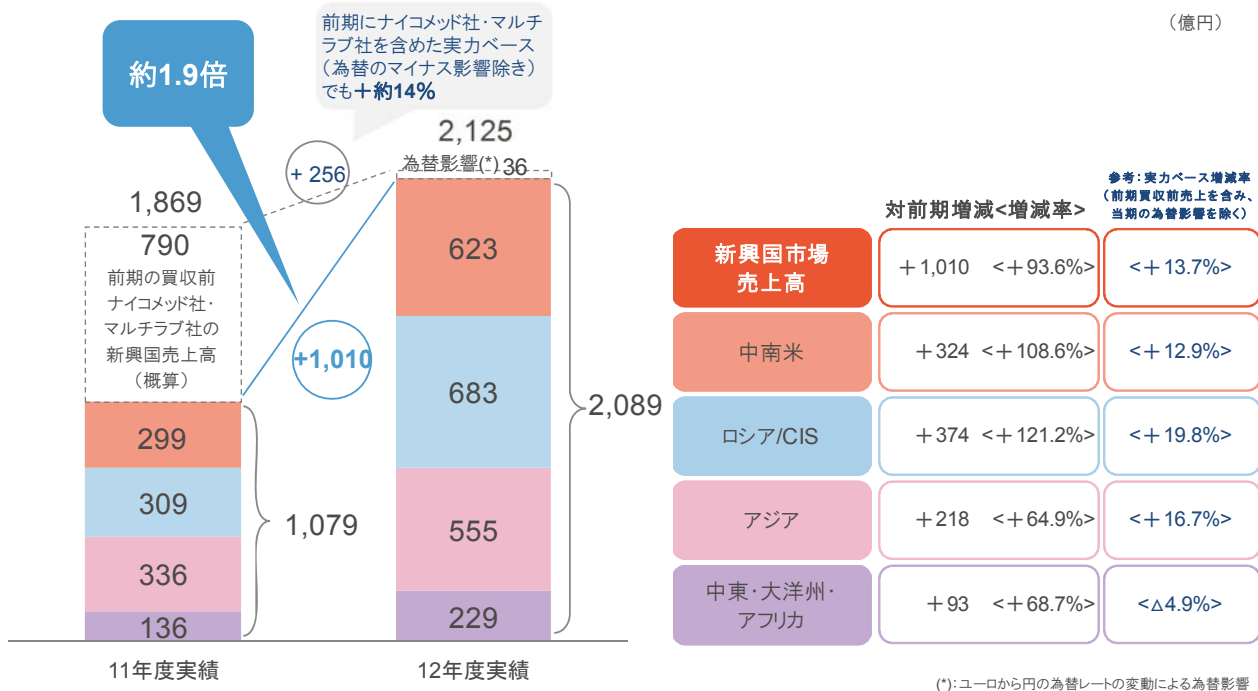


特に欧州・アジア等が売上伸長を牽引

(億円)

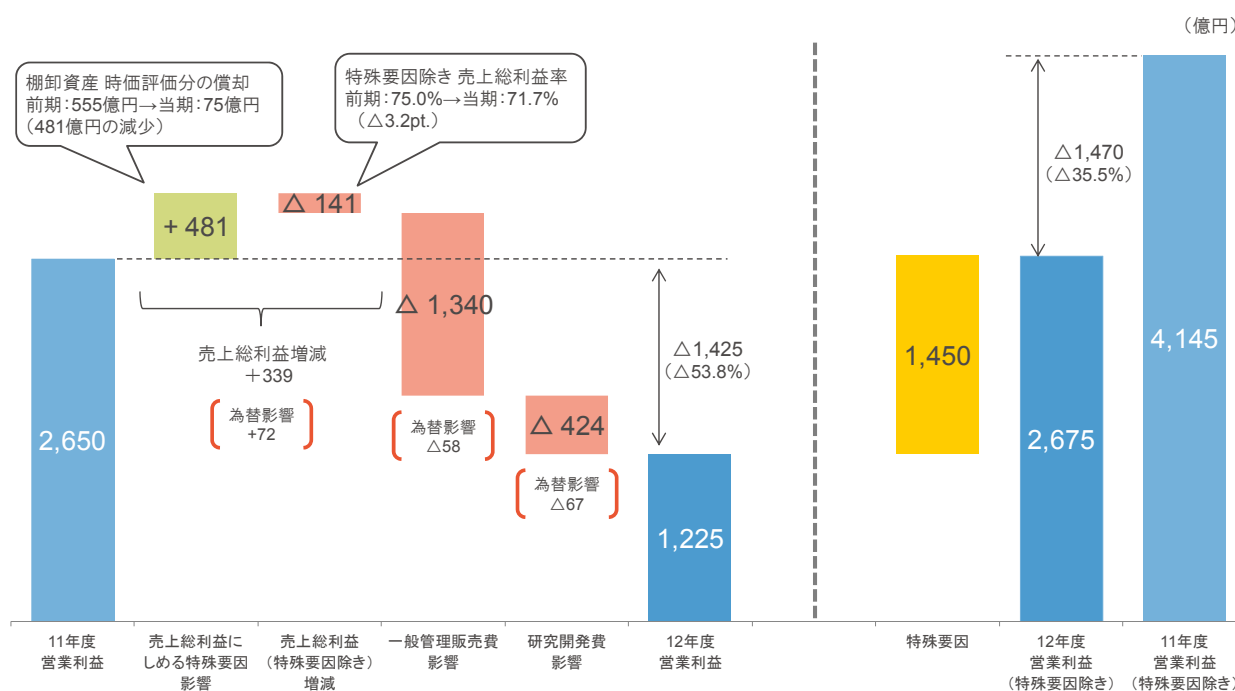


(億円)



6 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社

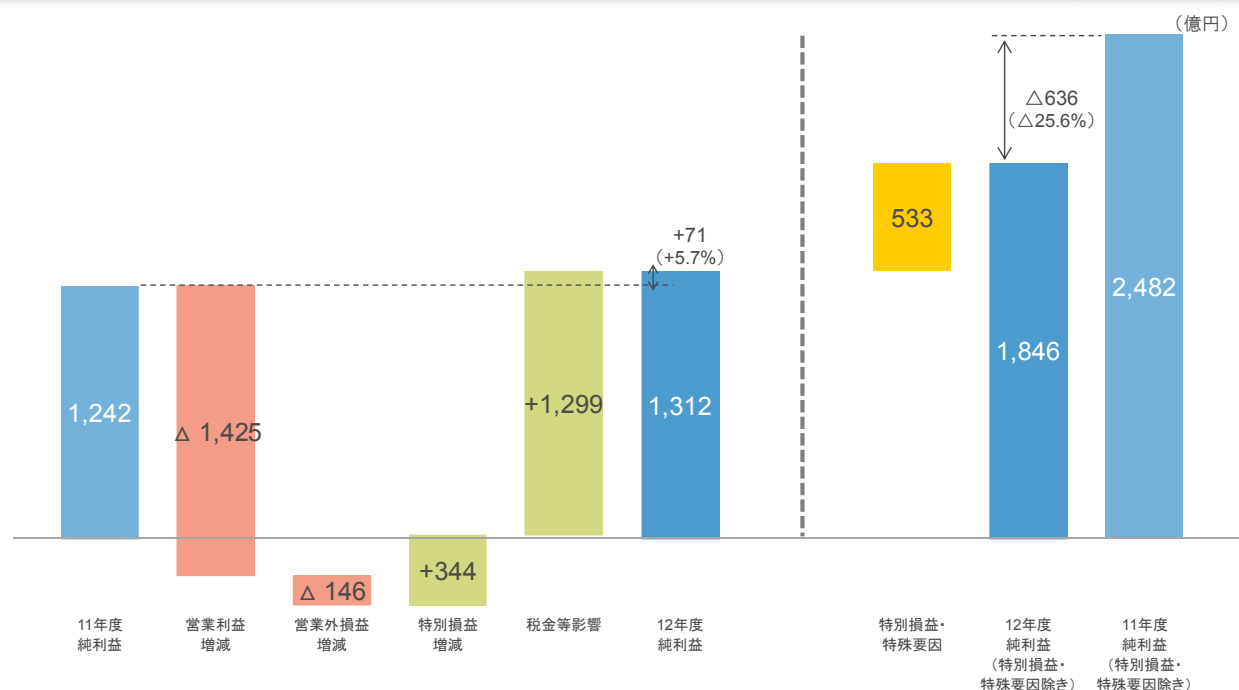


- 一般管理販売費の増加 (損) 1,340億円:買収に伴う発生費用の増加や、のれん・無形固定資産償却費の増加
 研究開発費の増加 (損) 424億円:開発後期のパイプラインを中心とした開発費の増加

7 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社

純利益の増減内訳



- ▶ 特別損益の増加 +344億円：11年度…特別損益(純額) 179億円の損 (特別利益 176億円、特別損失355億円)
12年度…特別損益(純額) 165億円の益 (特別利益 950億円、特別損失785億円)
- ▶ 税金等の減少(益) +1,299億円：12年度…プレバシッド取引に係る還付税金(益)574億円

2012年度 特別損益の内訳



項目	金額 (億円)	内容
<特別利益>		
投資有価証券売却益	531	株式売却
政府助成金	228	新型インフルエンザワクチンの開発・生産体制整備に関する政府からの助成金
法人税等還付加算金	151	プレバシッド取引の還付税金に係る還付加算金 (還付税金574億円は税金等にマイナスとして計上)
固定資産売却益	40	主として土地・建物等の遊休不動産の売却
<特別損失>		
減損損失	436	無形固定資産(ダクサス): 売上見込の下方修正による価値評価額減少 土地・建物等 : 遊休化 他
事業構造再編費用	252	海外子会社における合理化費用
製品自主回収関連損失	96	米国におけるオモンティスの自主回収に伴い発生した損失
特別損益合計	益 165	

キャッシュフローの状況



	11年度 実績 (億円)	12年度 実績 (億円)
営業活動によるCF	3,366	3,077
税金等調整前当期純利益	2,525	1,297
減価償却費(無形固定資産償却費を含む)	1,280	1,667
減損損失(特別損失)	—	436
のれん償却費	222	344
運転資金増減	647	123
法人税等の支払額(還付税金・還付加算金を含む)	Δ1,521	345
投資活動によるCF	Δ10,940	Δ1,114
有形固定資産の取得による支出	Δ619	Δ782
投資有価証券の売却および償還による収入	1	586
子会社株式の取得による支出	Δ10,400	Δ863
財務活動によるCF	3,938	Δ1,506
短期借入金の純増減額	2,398	Δ2,429
長期借入れによる収入	1,100	3
社債の発行による収入	1,896	2,380
配当金の支払額	Δ1,420	Δ1,421
現金及び現金同等物にかかる換算差額	Δ549	456
期 中 の C F	Δ4,185	913
現金及び現金同等物期末残高	4,542	5,456

10 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社

2012年度 連結業績 【対公表予想】



	公表予想 (2月公表) (億円)	実績 (億円)	対公表予想増減 (億円)	<%>	為替影響除き (億円)
売上高	15,500	15,573	+73	<+0.5>	Δ15
研究開発費	3,100	3,243	+143	<+4.6>	+112
営業利益	1,600	1,225	Δ375	<Δ 23.4>	Δ346
特殊要因(*1)除き	3,050	2,675	Δ375	<Δ 12.3>	Δ355
経常利益	1,500	1,132	Δ368	<Δ 24.6>	Δ337
特別損益	550	165	Δ385	<Δ 69.9>	Δ385
純利益	1,550	1,312	Δ238	<Δ 15.3>	Δ231
特別損益、特殊要因(*2)除き	1,900	1,846	Δ54	<Δ 2.9>	Δ55
EBITDA(特別損益除き)	3,450	3,239	Δ211	<Δ 6.1>	
EPS	196円	166円	Δ 30円	<Δ 15.3>	
特別損益、特殊要因(*2)除き	241円	234円	Δ 7円	<Δ 2.9>	
為替レート	USD	82円	+ 1円		
	EUR	105円	+ 1円		

*1: 営業利益に係る特殊要因 : 企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化、企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費
 *2: 純利益、EPSに係る特殊要因 : *1に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

11 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社



2013年度の連結業績の見通しと持続的成長目標

12 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社

2013年度 連結業績の見通し



日本国内や新興国を中心とした売上高の伸長による粗利益の増加により、新興国における販売管理費増加を吸収し、営業利益は前年度を175億円上回る見込み

		12年度 (実績)	13年度 (見通し)	増 減		
				(億円)	<%>	
売上高		15,573	15,900	+ 327	<+ 2.1>	
研究開発費		3,243	3,250	+ 7	<+ 0.2>	
営業利益		1,225	1,400	+ 175	<+ 14.3>	
特殊要因(*1)除き		2,675	2,800	+ 125	<+ 4.7>	
純利益		1,312	950	Δ 362	<Δ 27.6>	
特別損益、特殊要因(*2)除き		1,846	1,850	+ 4	<+ 0.2>	
EBITDA(特別損益除き)		3,239	3,400	+ 161	<+ 5.0>	
EPS		166円	120円	Δ 46円	<Δ 27.6>	
特別損益、特殊要因(*2)除き		234円	234円	+ 1円	<+ 0.2>	
為替レート	USD	82円	90円	+ 8円	参考: 為替レート 1円変動影響	
	EUR	106円	120円	+ 14円		
				13年度(億円)		
				USD	EUR	
				売上高	37	42
				営業利益	Δ9	2
				純利益	Δ7	0

*1: 営業利益に係る特殊要因: 企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化、企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費

*2: 純利益、EPSに係る特殊要因: *1に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

13 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

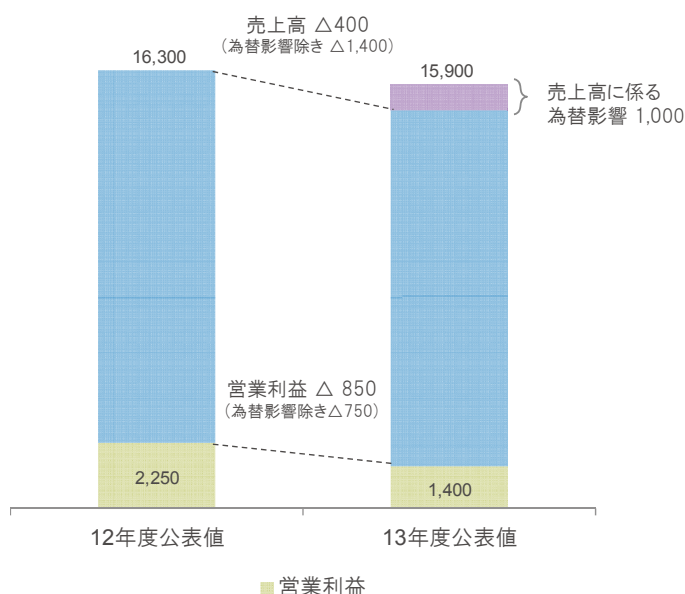
武田薬品工業株式会社

2013年度 連結業績の見通し 12-14年度中期計画における予想値との比較



FY13

(億円)



売上高

米国におけるオモンティスの回収影響(△500億円)に加え、日本や欧州での後発品浸透等の影響により、売上高は400億円低下。

営業利益

減収に加え、研究開発投資(3,000億円程度)の維持、新興国および新製品関連投資の維持により、営業利益は850億円低下。

前提為替レート(単位:円)	USD	EUR
12年度公表	80	105
13年度公表	90	120

(参考) IFRSの任意適用について



2014年3月期期末(13年度4Q)決算からIFRSを任意適用

IFRS適用の目的

- 欧米同業他社との財務情報の比較可能性の向上
- グループ内会計基準の統一による財務情報の均質化
- 資金調達の選択肢の拡大

▼IFRSベースの13年度業績見込み

(億円)	日本基準	IFRS	差額
売上高	15,900	15,900	—
研究開発費 <対売上高比率>	3,250 20.4%	3,350 21.1%	+ 100 +0.6pt
営業利益 <対売上高比率>	1,400 8.8%	1,550 9.7%	+150 +0.9pt
純利益 <対売上高比率>	950 6.0%	1,150 7.2%	+ 200 +1.3pt
EBITDA	3,400	3,700	+ 300
Core Earnings* <対売上高比率>	—	2,800 17.6%	—

日本基準/IFRS間の営業利益の差額(+150億円)について

- のれんの非償却化等の影響によりIFRSベースの営業利益は日本基準よりも150億円の改善
(各差異の具体的な金額はAppendix 参照)

*Core Earnings とは

- IFRSのGAAPベースの営業利益から、企業買収に係る会計処理の影響や無形資産の償却および減損などの一時的要因を排除した定常的なビジネスベースの利益
- 欧米企業を中心に、本業のパフォーマンスを示す経営指標として広く採用・開示されている

中期成長戦略における到達目標



2013年度以降の持続的成長目標【日本基準ベース】

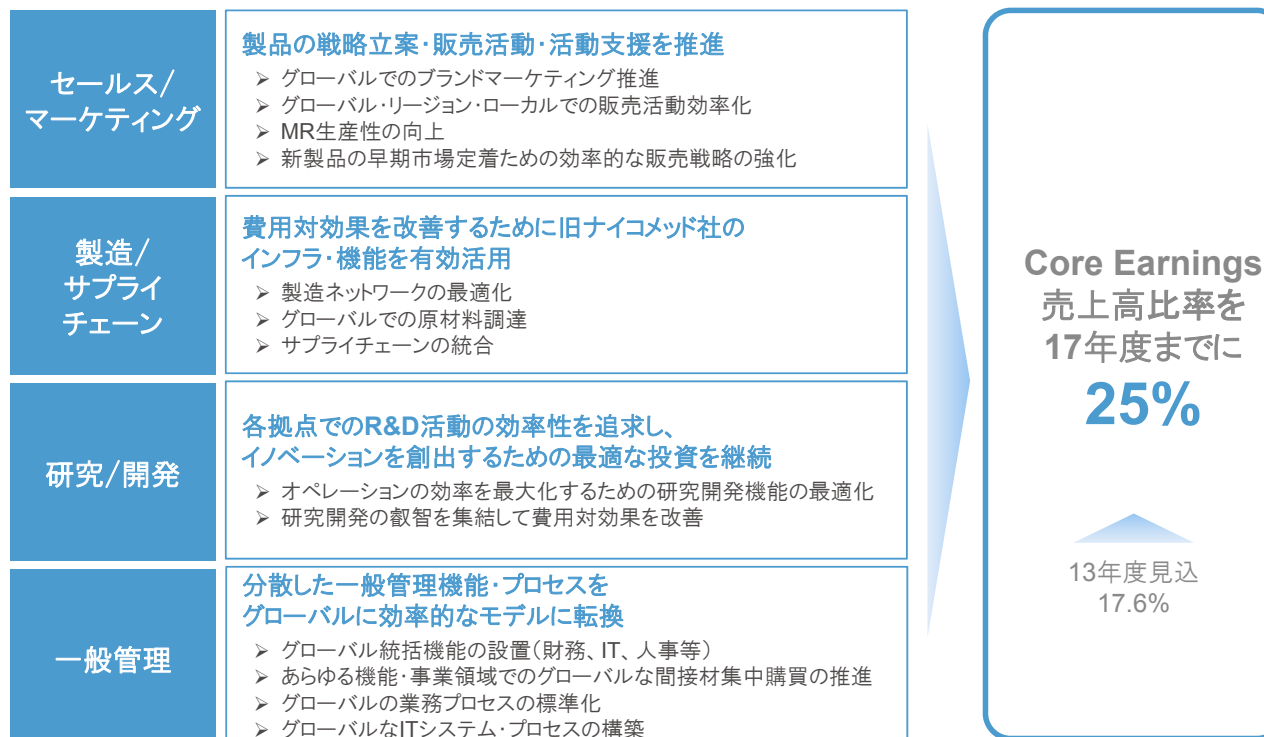
売上高	年平均成長率 一桁台半ばの成長	13-17年度
営業利益	年平均成長率 20%以上の成長	
配当	年間180円を維持	13-15年度

さらに、持続的成長を可能にするイノベーションへの積極投資として、

研究開発費については、今後も、3,000億円程度を維持

持続的成長のための取り組み Project Summit

～強靱かつ効率的なオペレーティングモデルの構築を目指して～





APPENDIX

医療用医薬品主要品目別売上高推移



	主要 販売地域	09年度実績 (億円)	10年度実績 (億円)	11年度実績 (億円)	12年度実績 (億円)	対前期増減 (億円)	<%>
リュープロレリン	全世界	1,204	1,164	1,207	1,165	△ 42	<△ 3.5>
ランソプラゾール	全世界	2,161	1,336	1,221	1,102	△ 119	<△ 9.7>
カンデサルタン	全世界	2,183	2,180	2,163	1,696	△ 467	<△ 21.6>
ピオグリタゾン	全世界	3,833	3,879	2,962	1,229	△ 1,733	<△ 58.5>
エンブレル	日本	323	384	414	432	18	<+ 4.3>
ネシーナ	日本	—	16	155	378	222	<+ 143.4>
ベクティビックス	日本	—	94	172	188	16	<+ 9.5>
アミティーザ	米国	198	186	187	223	36	<+ 19.4>
ベルケイド	米国	462	508	581	729	148	<+ 25.4>
ユーロリック	米国	44	91	129	177	48	<+ 37.3>
デクスラント	米国	85	181	242	327	85	<+ 35.3>
コルクリス (*1)	米国	9	126	368	407	39	<+ 10.5>
パントプラゾール (*2)	欧州/ 新興国	1,583	1,056	826	780	△ 46	<△ 5.6>
アクトベジン (*2)	欧州/ 新興国	142	169	186	196	10	<+ 5.4>
カルシウム (*2)	欧州/ 新興国	141	149	157	154	△ 3	<△ 1.9>
タコシール (*2)	欧州/ 新興国	128	129	138	132	△ 6	<△ 4.1>
ダクサス (*2)	欧州/ 新興国	—	4	24	30	6	<+ 24.3>
参考：ナイコメッド社製品 計(概算) (*2) (百万ユーロ)	欧州/ 新興国	2,918	2,838	2,984	3,126	142	<+ 4.8>
為替レート	USD	93円	86円	79円	82円	+ 3円	
	EUR	131円	113円	109円	106円	△ 3円	
	参考：EUR (12月決算)	130円	116円	-	-	-	

*1: 12年6月に買収したURLファーマ社の製品。09年度から12年5月までは、URLファーマ社買収前のコルクリス売上高を表示している(4-3月ベースに組み替え後)。

*2: 11年9月末に買収したナイコメッド社の製品。09年度から11年9月までは、ナイコメッド社買収前の当該品目売上高を表示している(09年度及び10年度については1-12月ベース、11年度については4-3月ベースに組み替え後)。

特殊要因・特別損益の内訳



(億円)
(マイナスは益)

特殊要因・特別損益の内訳	11年度 実績	12年度 実績
<売上原価> 棚卸資産のステップアップの費用化	555	75
URLファーマ社・マルチラブ社買収	—	75
<一般管理販売費・研究開発費> 無形固定資産償却費	717	1,030
TAP社統合	99	69
ミレニアム社買収	375	390
ナイコメッド社買収	234	478
URLファーマ社買収	—	82
<一般管理販売費> のれん償却費	222	344
ミレニアム社買収	120	125
ナイコメッド社買収	91	185
URLファーマ社買収	—	19
特殊要因が営業利益に与える影響	1,495	1,450
<営業外費用> 企業買収に起因する営業外費用	—	63
<特別損益>	179	△ 165
投資有価証券売却益	—	△ 531
政府助成金	—	△ 228
法人税等還付加算金	—	△ 151
固定資産売却益	△ 176	△ 40
減損損失	—	436
事業構造再編費用	355	252
製品回収関連損失	—	96
特殊要因・特別損益が税金等調整前純利益に与える影響	1,673	1,347
上記に係る税金・税効果影響	△ 433	△ 240
プレバシッド取引に係る還付税金	—	△ 574
特殊要因・特別損益が純利益に与える影響	1,240	533

うちナイコメッド社: 663

20 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社

EBITDAの内訳



(億円)

EBITDAの内訳	11年度 実績	12年度 実績
経常利益	2,703	1,132
+ 無形固定資産償却費(企業買収に起因するもの)	717	1,030
+ のれん償却費(企業買収に起因するもの)	222	344
+ その他償却費(上記以外)	565	636
+ 支払利息	19	33
+ その他	—	63
EBITDA(特別損益除き)	4,226	3,239

21 | 2012年度 連結業績の概要および2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標 | 2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社

2012年度に実施した企業買収の概要



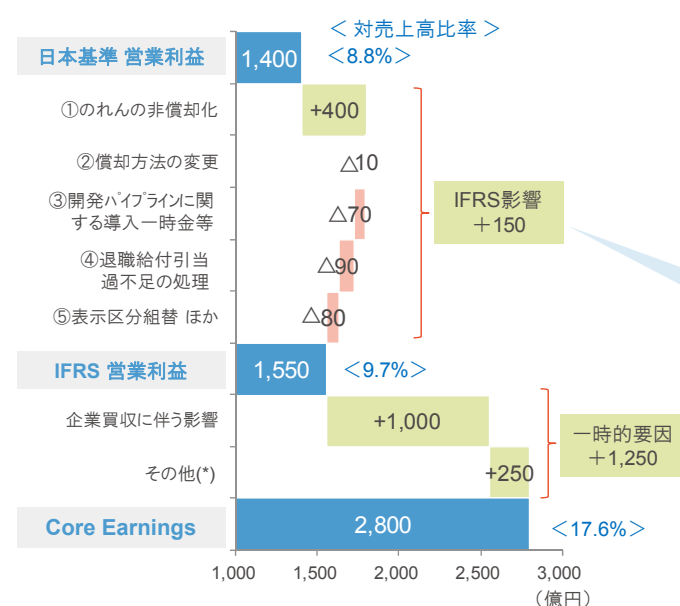
買収年月	会社名	買収時点における会社概要・買収価額	効果
12年6月	URLファーマ社	資本金 : 1千米ドル 資本剰余金 : 1,870千米ドル 所在地 : 米国 ペンシルベニア州 フィラデルフィア 買収価額 : 一時金800百万米ドル 2015年以降の一定期間、業績に応じたロイヤリティを支払う	【米国における痛風領域フランチャイズの強化】 ➢ 急性期の痛風治療剤である「コルクリス」を獲得 ➢ 「コルクリス」と高尿酸血症治療剤「ユーロリック」との相乗効果を発揮 ➢ 同社後発品事業は13年2月にCaraco社に譲渡済み
12年7月	マルチラブ社	資本金 : 41,750千BRL 所在地 : ブラジル リオ・グランデ・ド・スル州 São Jerônimo 買収価額 : 一時金500百万BRL 今後、最大40百万BRLのマイルストーンを支払う可能性あり	【ブラジルにおける販売基盤の強化】 ➢ ブランドジェネリック、総合感冒薬「マルチグリップ」等のOTC製品を獲得 ➢ 高い経済成長を示している地方都市における強固な販売網を獲得 ➢ ブラジルでの医薬品売上高でトップ10に入り、多様な医療ニーズに対応
12年10月	リゴサイト社 (現・武田ワクチン (モンタナ)社)	資本金 : 10千米ドル 資本剰余金 : 1,372千米ドル 所在地 : 米国 モンタナ州 ボーズマン 買収価額 : 一時金60百万米ドル 将来、開発の進捗に応じたマイルストーンを支払う可能性あり	【グローバルなワクチン事業の強化】 ➢ 臨床開発段階にある世界で唯一のノロウイルスワクチンを獲得 ➢ ウィルス様粒子(Virus-Like Particle: VLP)技術の導入 ➢ RSウイルスワクチン、インフルエンザウイルスワクチン、ロタウイルスワクチンの前臨床パイプラインを獲得 (2013年3月にリゴサイト社は武田ワクチン(モンタナ)社に社名変更)
12年11月	エンボイ社	資本金 : 8,000千米ドル 所在地 : 米国 フロリダ州 ジュピター 買収価額 : 一時金と将来支払う可能性のあるマイルストーンを含め最大で140百万米ドル	【創業基盤の強化】 ➢ 疾患に関与する細胞に発現する新規創薬標的の同定を可能にする bacTRAP® 技術を獲得 ➢ パーキンソン病や統合失調症に伴う認知機能障害を対象とした中枢神経系の前臨床パイプラインを獲得

2013年度 連結業績の見通し

～日本基準営業利益からIFRSベースの営業利益、Core Earningsへの調整



IFRSベースの13年度営業利益、およびCore Earningsへの調整



(*) : その他の主な内容…ライセンスにかかる無形資産の償却等

当社の損益に影響を及ぼす主要な差異

項目	日本基準	IFRS
①のれんの償却	➢ 20年以内で償却	➢ 償却せず、毎期減損テストを実施
②有形固定資産の償却方法	➢ 海外子会社を除き主に定率法 ➢ 特定目的の研究開発用設備は取得時に一括費用処理	➢ 定額法に統一 ➢ 特定目的の研究開発用設備は資産計上し、定額償却
③開発パイプラインに関する導入一時金、マイルストーン等の処理	➢ 取引発生時に研究開発費処理	➢ 無形資産に計上し、承認取得後、上市した時点から定額償却 ➢ 開発中止の場合、将来CFが悪化した場合等に減損テストを実施
④退職給付引当過不足の処理	➢ 発生時から5年間で償却(13年度は益償却)	➢ 損益認識せず、発生時に全額その他包括利益として認識
⑤営業外損益、特別損益の表示区分組替	➢ 本業以外の損益は営業外損益として、一時的・突発的な損益は特別損益として認識	➢ 営業外は金融損益に限定 <例>支払/受取利息、有価証券売却益、受取配当等 ➢ 金融損益を除く営業外損益、特別損益の多くが営業損益に組替わる(営業利益より上の損益として認識される)



バランスシートのスリム化

事業上必要のない投資有価証券、遊休不動産の処分

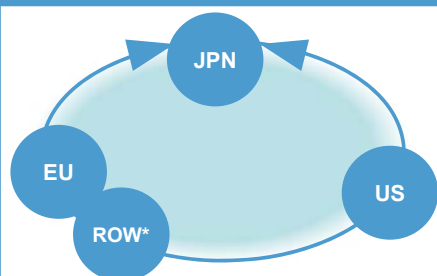
- 12年度実績：約570億円（税引前利益ベース）
- 13年度以降：キャッシュフロー、株式相場の水準等を見極めた上で適切な売却時期を検討

運転資本の圧縮

- 継続的な取組みを通じ、中期的に欧米製薬大手並みの「運転資本月数3ヶ月未満」を目指す

フリーキャッシュフローの最大化

キャッシュマネジメントの強化



グローバル資金管理体制の強化

- 日米欧(アジア・中南米地域含む)の財務管理拠点を通じて、各地域の資金をグローバルに一元管理する体制を整備、強化
- 各地域の余剰資金をタイムリーに、日本本社に集中

*ROW: rest of the world (アジアや中南米地域)

将来見通しに関する注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



武田薬品工業株式会社